



金沢市

後継者育成の取組

組織名	株式会社金沢アグリプライド(代表:大平 幸久)	農業地域類型	都市的地域
経営理念	プライドのある園芸産地を将来につなぐ	社員等	役員13名、社員1名
経営面積	施設97a(加賀太きゅうり25a、トマト35a、その他37a)、露地78a(打木赤皮甘栗かぼちゃ33a、その他45a)		

1. 経緯

- 金沢市打木町(以下「打木」という。)は、県内有数の園芸産地であり、「加賀野菜」(※)の栽培が盛ん。
- 平成20年頃から、高齢化に伴う離農や規模縮小により遊休農地が目立つようになった。
- 平成24年、県等の支援により打木全戸参加の「打木農地企画推進委員会」を立ち上げ、**就農希望者の受入や遊休農地の解消など打木の将来について検討を開始**。
- 平成28年から地域の担い手が里親となり、複数名の就農希望者(地区外)の育成に取り組んだが、技術習得に時間がかかり、地域にも馴染めなかったため取組を中止。
- 再度、地域と関係機関で協議を行い、時間をかけて就農希望者を育成する方法として、打木の有志農家が法人を立ち上げ、**将来の担い手となる者を雇用し育成**することを決定。
- 令和2年2月に株式会社金沢アグリプライドを設立。
- 遊休農地と施設を借り受けて、地区外の就農希望者(30代)を雇用し、役員13名が栽培技術の指導を行いながら、営農を開始。

※:「加賀野菜」は金沢市農産物ブランド協会が、昭和20年以前から栽培され、現在も主に金沢市で栽培されている野菜を認定したものの。

2. 課題と対策

- 収益性を高めて新たな雇用を確保**するため、栽培面積を拡大し、共販品目の生産量維持を図りながら、自社ブランドの直接取引も拡大する。



加賀太きゅうり



打木赤皮甘栗かぼちゃ



打木源助だいこん

3. 特徴的な取組や工夫していること

- 出資農家は自社の営農に従事しており、法人としての生産活動は、**出資農家が社員に栽培ノウハウ**を伝えながら、社員が実施。
- 毎月定例会を開催し、出資農家全員と社員で生産の計画・進捗管理を行うとともに、**経営課題の議論**を実施。
- 加賀太きゅうり等の加賀野菜の他、地域の共販品目である抑制栽培(※)のトマトの生産を主に行うとともに、(公財)いしかわ農業総合支援機構の専門家派遣を活用した品目別収支分析により、**収益性を踏まえた品目構成へ見直しを実施**。
- 売上は設立2年目に1千万円を超え、毎年右肩上がりとなっており、県主催の商談会を通じて、**新たな販路の開拓にも取り組む**。
- 令和4年には金沢農業大学の卒業生を受け入れ、社員が2名に増加。(うち1名は、令和6年1月に打木町で独立就農)
- 経営面積の拡大に伴い、トイレなどの労働環境も整えながらパートも拡充。
- さつまいもの収穫体験会を開催し、地域住民や市内の**子供たちへ農業の魅力を発信**。

※:抑制栽培とは、通常の収穫・出荷時期よりも遅らせて栽培すること。

4. 今後の目標

- 地域に無くてはならない法人として、打木の農地を守り**加賀野菜の栽培技術を伝承**していく。
- 法人の事務所や休憩場所を整備し、労働環境を改善して更なる雇用の確保と人材の育成を図り、**打木の担い手として経営を拡大**していく。



施設栽培用のハウス



加賀太きゅうり、打木赤皮甘栗かぼちゃの栽培の様子



トマトは抑制栽培により、需要期を見据えて出荷